

# 「あいちの生んだ作家展」作家リスト (1階 明治～昭和の作家)

作成：2011.1.5 愛知県図書館

つぼうち しょうよう  
●坪内 逍遙 安政6年5月22日(1859年6月22日)－昭和10(1935)年2月28日

尾張藩領であった美濃国加茂郡太田村(現岐阜県美濃加茂市)に尾張藩代官所役人の子として生まれた。幼名勇蔵のち雄蔵。明治2(1869)年11歳の時、家族とともに名古屋郊外の上笹島村(現名古屋市巾着区名駅)に移った。

明治16年東京帝国大学文学部政治経済科を卒業後、東京専門学校(のちの早稲田大学)に講師として招かれ、以後30余年にわたって早稲田大学の教壇に立つ。明治18年から翌年にかけて小説「当世書生気質」を発表するとともに、小説論「小説神髓」を刊行し、日本近代文学の理論的指導者となる。また、明治21年ごろより演劇改良運動を志し、同42年には演劇研究所を設立し俳優を養成したほか、生涯シェークスピアの研究と翻訳に力を尽くした。

貸本屋大惣に日参して江戸文学を読み耽り、また芝居好きの母に連れられて芝居町に通い、愛知英語学校でシェークスピアを学んだ名古屋での少年時代は、逍遙の生涯を決定づける大きな意味をもった。

ふたぼてい しめい  
●二葉亭 四迷 元治元年2月28日(1864年4月4日)－明治42(1909)年5月10日

江戸市ヶ谷の尾張藩上屋敷に尾張藩士の子として生まれる。本名長谷川辰之助。維新後両親の郷里の名古屋へ移り、名古屋藩学校でフランス語を学ぶとともに、漢学も学ぶ。その後父の転職に伴い、東京、そして松江に移る。東京外国語学校露語部に入学するが、学制改革により東京商業学校に併合されると退学。

退学の直後、同郷の坪内逍遙を訪問し、文学者となる決意を固め、明治19年「小説総論」を発表。同20年「浮雲」第一編を発表し、言文一致による文体で、日本近代小説の先駆となる。翌年発表したツルゲーネフの翻訳「あひびき」「めぐりあひ」も、同時代の作家に大きな影響を与えた。

おぐり ふうよう  
●小栗 風葉 明治8(1875)年2月3日－大正15(1926)年1月15日

愛知県知多郡半田町(現半田市)の薬種商「美濃半」の長男として生まれる。幼名磯平のち磯夫。小学校時代から文学に親しみ小説家を志す。

明治23年薬学校入学という名目で上京するがやがて退学、錦城中学校に入り、別科の坪内逍遙らの講義を聴き、青年文学会にも入会。やがて心酔してした尾崎紅葉の門を叩き、入門を許される。明治29年の「亀甲鶴」が幸田露伴の激賞を得て、文壇での地歩を確立。泉鏡花とともに紅葉門下の双璧と見なされた。紅葉没後の明治38年から連載した長編「青春」が代表作。

明治42年、妻の郷里である豊橋市に移り、大正15年豊橋に没した。

こさかい ふぼく  
●小酒井 不木 明治23(1890)年10月8日－昭和4(1929)年4月1日

愛知県海部郡蟹江町に地主の長男として生まれる。本名光次。愛知一中(現愛知県立旭丘高等学校)、三高を経て東京帝国大学医学部を卒業。大学院を経て、東北帝国大学助教授に任じられ、欧米に留学。その間肺を病み、帰国後教授に任じられるが任地に赴かないまま大正11年退職。

同年、名古屋市御器所町(現昭和区鶴舞)に居を構え、39歳で亡くなるまでの数年間に、医学随筆や医学知識をもとにした探偵小説を数多く発表。また、海外の探偵小説を翻訳し紹介するなど、探偵小説の勃興期に大きな足跡を残した。

えどがわ らんぽ  
●江戸川 乱歩 明治 27(1894)年 10 月 21 日－昭和 40(1965)年 7 月 28 日

三重県名賀郡名張町(現名張市)に生まれる。本名平井太郎。3 歳の時、父の転職に伴い名古屋市園井町(現名古屋市中区)に転居。愛知五中(現愛知県立瑞稜高等学校)を経て、早稲田大学政経学部を卒業したのち、大阪の貿易会社をはじめ多くの職業を転々とする。

大正 12 年雑誌「新青年」に発表した「二銭銅貨」で作家として認められ、その後「一枚の切符」「D 坂の殺人事件」などを発表、探偵小説家として活躍。怪奇な謎と科学的推理による本格的推理小説を確立し、名探偵明智小五郎を生み出した。

昭和 22 年設立された日本探偵作家クラブ(のちの推理作家協会)の初代会長となり、昭和 29 年には江戸川乱歩賞が設定された。

ささき みつぞう  
●佐々木 味津三 明治 29(1896)年 3 月 18 日－昭和 9(1934)年 2 月 6 日

愛知県北設楽郡下津具村(現設楽町)生まれ。本名光三。愛知一中(現愛知県立旭丘高等学校)を経て、上京し明治大学政経科を卒業。

大学時代から記者をしていた総合雑誌「大観」に「葦毛の馬」「馬を殴り殺した少年」などを発表し文壇から注目される。大正 12 年菊池寛主宰の「文藝春秋」創刊時には編集同人として参加、翌年には横光利一らとともに新感覚派の機関誌「文藝時代」を創刊した。

大正 15 年、長兄の死にともないその遺児や弟妹の養育のため、純文学から大衆文学への転向を決意する。昭和 3 年には「右門捕物帖」、翌年には「旗本退屈男」の連載を開始し好評を得、一躍人気作家となる。以後多くの大衆小説を発表したが、昭和 9 年急性肺炎のため 37 歳の若さで逝去。

おざき しろう  
●尾崎 士郎 明治 31(1898)年 2 月 5 日－昭和 39(1964)年 2 月 19 日

愛知県幡豆郡横須賀村(現吉良町)生まれ。愛知二中(現愛知県立岡崎高等学校)時代から政治に関心を示し、社会主義運動にひかれる。早稲田大学高等予科に進学。大正 6 年の早稲田騒動では指導者として活躍、これを期に自ら大学を去り社会主義運動に関わるが、やがて離脱。

大正 10 年 23 歳のとき、「時事新報」の懸賞短編小説で 2 位入賞、同年「逃避行」を刊行し文壇に登場する。昭和 8 年から「人生劇場」の連載を開始、その「青春篇」が同 10 年に刊行されるとベストセラーとなる。以後、戦時下を花形作家として過ごし、そのため戦後は戦争協力を問われ公職追放されたが、昭和 24 年に復帰。25 年の「天皇機関説」で文藝春秋読者賞を受賞した。酒と浪曲を愛し、相撲通としても知られた。

すぎうら みんべい  
●杉浦 明平 大正 2(1913)年 6 月 9 日－平成 13(2001)年 3 月 14 日

愛知県渥美郡福江村(のち渥美町、現田原市)で、地主兼雑貨商の長男として生まれる。豊橋中学校(現愛知県立時習館高等学校)、一高を経て、東京帝国大学文学部国文学科卒業。

東大在学中に立原道造らと同人誌「未成年」を創刊。卒業後東京外国語学校夜間部でイタリア語を習得し、戦時中はルネッサンス研究を続ける。

敗戦後は郷里の渥美町に定住し、農業のかたわら作家・評論活動を続ける。また、地元の青年たちと様々なグループを結成し交流を深め、町会議員も務めた。

地方政治を扱った記録文学「リソダ騒動記」「基地 605 号」や、「小説渡辺崋山」などの歴史小説、その他評論、エッセイと幅広く活躍。平成 7 年 81 歳にして「ミケランジェロの手紙」の翻訳を完成させ、注目を集めた。

こたに つよし  
●小谷 剛 大正 13(1924)年 9 月 11 日－平成 3(1991)年 8 月 29 日

京都市生まれ。名古屋帝国大学附属医学専門部卒業。昭和 20 年軍医として海軍に入隊。昭和 21 年名古屋市中川区で産婦人科医院を開業する。

医師業のかたわら、昭和 23 年から 43 年間同人雑誌「作家」を主宰した。昭和 24 年「確証」で戦後復活した最初の芥川賞を受賞。「作家」からは、直木賞を受賞した豊田穰(1920-1994)、藤井重夫(1916-1979)の他、多くの新人作家が輩出した。